2012年1月の研究会報告（その1）

キヤノンⅣSb、ⅣSb改のアクセサリーと付属品

会員番号　0764　　長谷川　幸也

日時：2012年1月14日14:10～14:40

於：　JCII6階会議室

クラシックカメラの楽しみ方の一つに、アクセサリーの収集がある。アクセサリーは、その目的に合わせて多種多様なものがある。奇抜なアイデアのもの、アイデアは良いが、実用としてはどうかと思われるもの、今となってはその用途が分からなくなってしまったものなどがあり、現行のカメラの様に機能が素晴らしく発展した状況では、実際に使用するのは面倒かつ難解なものがほとんどである。だが、クラシック・カメラフアンとしてはその不便なアクセサリーを使っての撮影もまた大きな楽しみである。

キヤノンⅣSb（写真1）は、1952年（昭和27年）に発売された。キヤノンのいわゆるバルナック型の35mmフォーカルプレーンシャッター式距離計連動カメラとして、ほぼ完成された姿であった。主な仕様は、シャッタースピード、1～1／1000、B、Tで、X接点を備え、ファインダーは、キヤノン独特の一眼型2重像合致連動距離計と、3段階に視野倍率を可変する回転式逆ガリレオ式ビューファインダーを内蔵していた。当時の国産35mmカメラの最高級機の一つであった。キヤノンⅣSb改（写真2）はⅣSbに比較すると、

1) 高速シャッター指標が倍数系列、中軸指標付きとなり、巻き上げ前後に拘わらずセットできるようになった。
2) 低速シャッターが1/25-1から1/30-1となり倍数系列となった。
3) 低速側シャッターのみのX接点が、高速側シャッターにも設置された。
4) ファインダー接眼窓がやや大きくなり見やすくなった。
5) フィルムの装填枚数メモ表示板が取り付けられた。

などが外観からも識別できるものである。

表1にⅣsbとⅣsb改の販売期間、台数、価格の比較を示す。これらの改良による価格への反映は500円でしかないことが分かる。

メーカーでは、それらのカメラの機能をフルに発揮し、使用者の利便性を向上する目的で多くのアクセサリーを提供してきた。その数は、1955年版の「カメラ年鑑」に掲載された同社の広告によると、130余種となっている。もちろんこの数は、例えばフィルターでは、その色やサイズ、フードやレンズキャップもサイズの違う毎にカウントしているので、アクセサリーの種別としては、それよりも少ない数になる。また汎用性はないが、オッシロスコープに対応した付属品や、レントゲン撮影に必要な接続部品などもあった。これらに加えて、純正品以外の社外メーカーが製作したアクセサリーも相当数あった。

アクセサリーには、フィルターやフードのように、きれいな写真を撮るために不可欠なもの、接写や顕微鏡写真向けの特殊な撮影に必要なもの、機材の保護や持ち運びのためのケース類などに分類される。

アクセサリーの収集は、楽しみなものでは

写真1　キヤノンⅣsb セレナ-50mm　F1.8付き
1952(昭和27)年発売

写真1　キヤノンⅣsb改 キヤノン50mm　F1.8付き
1955(昭和30)年発売

表1 Ⅳsb と Ⅳsb改 の比較

	Ⅳsb	Ⅳsb改
販売期間	1952年～1955年 昭和27年～昭和30年	1955年～1956年 昭和30年～昭和31年
販売台数	約3万5千台	約1万7千台
価格 F1.8 付き	74，000円	74，500円

表2 主なアクセサリー一覧

1	カメラケース	7	マガジンとスプール
2	レンズ 標準 50mm	8	フラッシュ
	レンズ 広角系 25、28、35mm	9	ラピッドワインダー
	レンズ 長焦点系 85、100mm	10	カメラホルダー
	レンズケース	11	セルフタイマー
3	フード・フードケース	12	ミラーボックス
4	フィルター	13	マイクロフォト・フード
5	ファインダー	14	ボディキャップ
6	オートアップ	15	レンズ用フロントキャップ
	（一体型、分離型）	16	レンズ用リアキャップ
	パラックスコンペンセーター	17	底 蓋

写真3 ラピッドワインダー対応(希少)

写真4 モール付き(少ない)

写真5 茶色革ケース(標準)

あるが、今となってはなかなか見つけることができなかったり、もし有ったとしてもケースなどは完全な状態のものは少ない。カメラ本体に比べ収集が困難であったが、足を使い時間をかけてようやく手元に置くことができた約90種の純正アクセサリーをご紹介する。

アクセサリーの紹介

アクセサリー類を、キヤノン社の分類等を参考に、一覧として表2に示す。この分類の順序に従って、簡単に説明等を加える。

1. カメラケース(写真3～6)

色は茶と黒があった、黒は珍しい。初期にはモール付もあったが数は少ない。ラピッドワインダー装着時用のケースは希少である。

2. レンズおよびレンズケース

(レンズはアクセサリーの範疇からはやや外れるので詳細の紹介は別の機会に譲る。)

標準：50mm、Serenar名とCanon名の2種類があり、F1.5が最大口径である。

広角系：25mm、28mm、35mmの3種。25mm以外はSerenar名とCanon名の2種類ある。

25mmは、キヤノン特有の焦点距離であった。キヤノンは、カメラの特性を考え広角系には力を入れていた。

長焦点系：85mm、100mm、135mmの3種。85mmにはF1.5という明るいレンズもあった。

レンズケース：皮革製の高級感のあるもので、円形のものとファインダーやアタッチメントを同時に収納するために楕円形のものなどもあった。

3. フード(写真7～14)

各レンズに対応し、それぞれの専用フードがあった。50mm用には角型フードやF3.5 用があり、また長焦点用にレンズキャップ兼用のものもある。

写真6 黒色革ケース(希少)

4. フィルター

各レンズに合わせ、シリーズⅥ、Ⅶなどが当時の標準として使用されたが、後期には薄型のフィルターも販売された。

5. ファインダー(写真15～21および25)

各レンズの焦点距離に合わせた、単独ファインダー、35mm～135mmまであるユニバーサル・ファインダー、フレーム状で50mm～

写真7 50mm (希少)

写真8 35mm、50mm兼用

写真9(左) 50mm F3.5用(希少)。写真10(右)はレンズに装着した状態

写真11 50mmF1.5用(希少)

写真12 85mmF1.9
フード兼キャップ

←写真13
85mmF1.5
フード

写真14→
100mmF3.5
フード兼
キャップ

写真15 25mm用

写真16 28mm用

写真17 35mm用

写真18 85mm用

写真19 100mm用
ロゴ違い2種

写真20 135mm用
ロゴ違い2種

写真21 スポーツファインダー
50、85、100、135mmの枠付き

写真22 オートアップ
固定鏡胴用一体型

写真23 オートアップ
回転鏡胴用分離型

写真24 オートアップ用
パララックスコンペンセーター

135mmのスポーツ・ファインダーなどがあった。ユニバーサル・ファインダーには、25mm、28mmのアタッチメント(通称ラッパ)がある。

また、100mm、135mm用のファインダーには、それぞれロゴの記載に違いがあるものがあり、収集の楽しみがある。ファインダーケースは皮革製で、しっかり作られファインダー毎にロゴと焦点距離がエンボスされた立派なものである。

6. オートアップ(写真22～25)

当時、独自に日本で開発された、接写用レンズである。これには固定鏡胴用の一体型(写真22)と、回転鏡胴用の分離型(写真23)との二種類があった。また視差(パララックス)補正のために使用する、オートアップ用のパララックス・コンペンセーター(写真24、25)もあった。

7. マガジンとスプール(写真26～28)

当時のフィルム事情でマガジンが必要であった。マガジンのケースは、灰色と茶色の二種のベークライト製のものと、丁寧な作りの皮革製のものがあった。

キヤノンのスプールは、取扱いの便を考慮し、つまみ部がバネにより飛び出す仕組みとなっていた。このバネの欠損に対処するためか、スプールは単品でも販売されていた。

8. フラッシュおよびアダプター(写真29～31)

キヤノンⅣSbには、側面に独特のフラッシュ装着レール(コネクター)が付いていた。これに直接つけられるフラッシュユニットとして、キヤノンからフラッシュユニットYが発売された。

一般に入手できるフラッシュやストロボはドイツ式コネクターが必要であるが、これを取り付けるためのアダプター(写真30)や、また2極エジソン・コネクター用セルフ・エクステンダー・アダプター(写真31)も作られた。

12. ラピッド・ワインダー(写真32)

カメラ底部に取り付けることにより、トリガー式の迅速巻き上げが可能になるものである。

13. カメラホルダー(写真33、34)

キヤノンの特有のアクセサリーの一つで水準器も付属しており、三脚にカメラを取り付けるときなどに便利なものである。黒色のきれいな塗装仕上げで、美しいものである。

写真25 ユニバーサルファインダー、オートアップおよびパララックスコンペンセータを装着した状態

14. セルフタイマー(写真35)

カメラ本体には装備されていなかったので、別売品となっていた。この時代のものは、セルフタイマーⅡ型である。

9. ミラーボックス(写真36)

望遠レンズや顕微鏡撮影などに使用される

写真26 マガジン　写真27 マガジンケース(左端が革製)

写真28 市販スプールと箱

写真29 フラッシュユニットY

写真30 ドイツコネクター・アダプター

写真31 セルフ-エクステンション・アダプター

写真32 ラピッド・ワインダー

写真33 カメラホルダー

写真34 カメラホルダー装着状態

写真35 セルフタイマーⅡ型

写真36 ミラーボックス 200mm F3.5専用レンズ付

←写真37 ↑写真38 マイクロ・フォトフード、
写真38はフードを最大に伸ばしたところ.

←写真39
ボディーキャップ
Canonのロゴが中央
にある

→写真40
ボディーキャップ
Canonのロゴが下に
円弧状に入っている。

もので、二股レリーズが付属している。フィルターはボックス裏面に特殊な形状のものをねじ込む方式である。

10. マイクロフォト・フード(写真37、38)

顕微鏡写真の撮影時にミラーボックスと併用し、周辺の光を遮断する目的で使用する。

11. ボディキャップ(写真39、40)

レンズを外した状態のボディの開口部をふさぐ目的で使われるもので大変作りがよく、取り付けたときロゴがきちんとした位置にくる。なおロゴは、二種類あり、一つにはJAPANの文字がない。

12. レンズ用フロントキャップ

ほとんどがアルミ製であり、普通は表面にはCANONの文字しか入っていない。しかし、真鍮にめっきしたものや、JAPANの文字が入ったものもある。

13. レンズ・リアキャップ(写真41～43)

ベークライト製と金属製がある。ベークライト製には、ロゴが外側にあるものと、内側にあるものがある。ロゴには、Made in Japanあるいは Japanの文字が見える。

14. 底 蓋(写真44)

底蓋には三脚ネジが大ネジと小ネジのものがある。大ネジの底蓋は数少ない。

以上、私の所有するキヤノンⅣSbとⅣSb改の2機種向けに作られた純正品約90種の内主要なものを紹介した。さらに、その中のいくつかをカメラに装着しお眼にかけた。

まだまだここにご紹介したものの他にも貴重なアクセサリーがあると思われるので、皆様からのご教示をお待ちする。

レンズ・リアキャップ(左から写真41～43)
写真41金属製、ロゴが外側にある。写真42 ベークライト製、ロゴが内側にある。
写真43 同じくベークライト製、ロゴが外側にある。

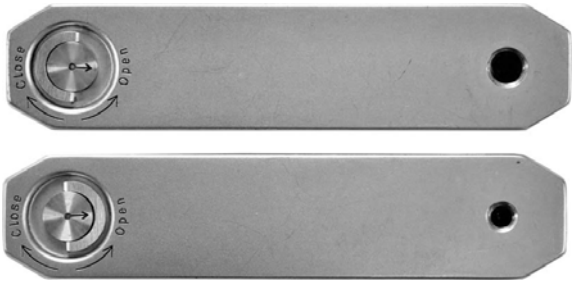

写真44 底蓋
大ネジ(上)と小ネジ(下)がある。大ネジは数少ない。